



想文研だより

Vol. 2

2015年11月

発行/NPO 法人 想像文化研究組織編集室

658-0003 神戸市東灘区本山北町6丁目2-13 メール/ici.uemura2010@gmail.com 電話/080-8946-5171

「想像から「創造」へ

～よく生きるための原動力～

想像文化研究組織副理事長

饗庭千代子



「いったい何をやる会？」組織の名前を告げると必ずこう聞かれます。「想像文化研究組織」という名称から活動の中身を「想像」することは難しいようで、いまだにわかりにくいと不評です。

定年を5年後に控えた私たちが、「新しい高齢者文化を創る」をスローガンに講座や研究会を立ち上げたいと真剣に考えていた頃、社会はすでに高齢化に向かってスピードを上げ、老いを生きるための文化・健康講座、ハウツー本に体験記などがあふれていました。でもこれから高齢社会にデビューする私たちに、何がよい、悪いと自信を持って提供できるものはありません。私たちがしたいこと、できることは何か…

機関紙創刊号に理事長が「想像する」ことの意義を書いています。自分や社会の未来だけでなく、見知らぬ土地や遠い過去、他人の気持ち、小説や映画の世界、それに一番の大物である夢など想像の世界は無限です。想像力はあらゆる意味で何かを創り出すための、

ひいてはよく生きるための原動力ではないでしょうか。まさに「想像」から「創造」へ、です。「考える」も重要ですが、「想像する」はもっと広くて自由で楽しそうにみえます。

私たちにできることがあるとしたら、同じ立ち位置で「考え」「想像し」「語り合う」仕掛けを作ることだと気づきました。情報の洪水を整理し、判断し自分のものに作り変える仕掛けです。こうして「カレッジICI」と「カフェ・タナトロジー」が生まれ、さらにこの機関紙が仲間入りしました。

「生きること、死ぬこと」を核に、時に核そのものに迫り、時に核の見えない周辺を探ります。このプロセスそのものが「よく生きる」一コマになり、やがてそれぞれのマイ死生学が形をなしてくると信じています。

主旨に賛同してくれた友人たちと「何だか面白そう」と会員になって下さった参加者が物心両面で活動の担い手です。学期ごとの企画、運営も皆でアイデアを出し合って決めています。

講座の時間だけでなく、あとでお茶を飲みながら、家に帰ってご家族と、さらには地域のコミュニティで「続き」を考え、想像し、語り合っただければ、スタッフは最高に幸せなのです。



カフェ・タナトロジー

おしゃかさまを肴に語ろう

～参加者とともに～

11月28日(土) 14:00～16:00

河口 珠輝・市川 定敬・道之前 允直

おしゃかさまシリーズ3人の講師を囲み教室の皆さんとおしゃかさまを肴に大いに議論していただきます。

2学期これからのプログラム

在宅での看取り

～死にゆく人からのメッセージ～

12月12日(土) 14:00～16:00

訪問看護ステーション メリー所長 中村 育子

介護の現場で多くの高齢者を看取ってきた看護師さんは死にゆく人からどんなメッセージを受け取ってきたのでしょうか？

カレッジICI